日ロ交流

発行　：特定非営利活動法人　日ロ交流協会
E-mail:nichiro@nichiro.org
Home Page http://www.nichiro.org
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号
Tel：03（5563）0626　Fax：03（5563）0752

NPO日ロ交流協会第18回（通算54回）通常総会開催

内堀　學

2018年3月24日（土）14:00より新橋生涯学習センター303号室にて当協会の第18回通常総会が開催され正会員23名が出席した。総会の議長には定款26条に基づき朝妻副会長が選出され、続いて定款27条に基づく定足数の確認があり、正会員出席者23名、書面表決者58名、委任表決者12名の計93名となり、正会員数214名の1/3　以上であることが確認され、総会の成立が確認された。定款30条に基づく議事録署名人には、内堀専務理事、益田常任理事が選任された。

続いて議案審議に移り、第1号議案「2017年度事業報告」、第2号議案「2017年度収支決算報告」、「2017年度会計監査報告」、第3号議案「2018年度事業計画」、第4号議案「2018年度収支予算案」、第5号議案　「理事及び監事の選任」が審議され原案通り承認され、通常総会は14：30終了した。

任期満了に伴い今回新たに選任されたのは理事38名、監事1名で新たな任期は平成30年4月1日より2年間で、4月1日に開催された第1回理事会で会長、副会長、専務理事、常任理事の役職役員の選任が行われ、有馬会長、江守副会長、朝妻副会長、服部副会長、内堀専務理事、及び千葉事務局長含む常任理事15名が再任された。

総会議事終了後、今回新たに初めて理事に選出就任された江本、宍戸、野口新理事が紹介され（松本新理事はロシア短期留学中のため、欠席）、更に出席者による協会運営に関わる意見交換が行われた後、散会となった。なお、長年懇話会担当理事として当協会の活動にご尽力頂いた川島常任理事は本総会をもって理事を退任された。同氏の長年のご尽力に対し当協会より感謝申し上げます。（専務理事）

新役員一覧

名誉会長	西澤　潤一	常任理事	日向寺　淳一	理事	名島　薫
会長	有馬　朗人	常任理事	益田　元一	理事	野口　久美子
副会長	江守　元彦	常任理事	水口　淳	理事	長谷川　淑子
副会長	朝妻　幸雄	常任理事	山岸　ひさ子	理事	平野　元子
副会長	服部　文男	常任理事	山田　雄康	理事	松本　泰男
専務理事	内堀　學	常任理事	横山　宣彦	理事	望月　繁
常任理事／事務局長		理事	岩橋　和治	理事	山口　建二郎
	千葉　麻里	理事	江本　大輝	理事	渡邊　絹江
常任理事	岩本　智子	理事	大矢　温		
常任理事	岡崎　好典	理事	小倉　隆子	監事	吉田　臣吾
常任理事	亀田　慶一郎	理事	沢西　清雄		
常任理事	坂本　斐子	理事	宍戸　一卓	名誉顧問	栗原　小巻
常任理事	関根　礼子	理事	島山　堅蔵	顧問	野崎　守二
常任理事	滝波　秀子	理事	須田　毅	顧問	番場　憲雅
常任理事	中村　忠敬	理事	大道寺　柳子	顧問	関根　徹
常任理事	中村　泰弘	理事	土屋　正彦		（以上　計43名）

お知らせ

●ロシア語クラス生徒募集中

ゼロからクラス開講！（月）13：30～14：30
平日クラス月4回¥5500×3ヶ月前納。見学できます。
初級会話（月）19:30-21:00、入門クラス（水）18:30-19:30
準中級会話（月）18:30-19:30、中級会話（火）18:30-20:00

●マイヤさんのロシア料理講習会Ⅱ

日時：2018年4月28日（土）13：30～16：30
場所：田町駅みなとパーク芝浦「リーブラ」料理室
会費：会員2000円、一般3000円
メニュー：ビーフストロガノフ、ビネグレード

●第51回マトリョーシカ絵付け教室

日時：2018年4月15日（日）9：00～12：00午前中です！
講師：菅野エレーナ
場所：田町駅みなとパーク芝浦、「リーブラ」造形表現室
会費：3,000円（5個セットの教材、講師代、お茶代含む）
＊2回目以降の参加で教材をお持ちの方は2,000円です。
＊第52回マトリョーシカ絵付け教室は午後になります。
　5月20日（日）13：00～16：00です。

お問い合わせ、お申し込みは協会事務局まで
Tel：03-5563-0626　nichiro@nichiro.org

３月１０日開催講演会に出席して

武川 覚威

日本とロシアの教育体制の比較という、あまり先行される研究が見当たらなさそうな議題であったので、非常に興味深いものでした。

民族の規定要因、言語の規定要因、それぞれの国家を決めるためのアイデンティティなど、日本には存在しない問題が、隣国には存在していることを学ぶことができました。教育に関しては、日本とソ連およびロシアにおける教育に関する法の序文は非常に類似していることが非常に興味深いものでした。そんな中でも資本主義のコンテクストを持つ日本と社会主義の雄とされてきたロシア、そして基本的に一つの民族から構成される日本いう社会構成における教育の方法論は非常に異なるものである事実が興味深かったです。

日本においてもロシアにおいても、グローバリズムと言われるような多民族化が（日本ではまだ始まったばかりかもしれませんが）進む中で、日本がロシアの教育体制から学べるものもあるのかもしれません。私たちが学んでいた日本語（国語）の教育というものは、今思い起こせば文法的なものではなく、むしろ日本語を鑑賞していく能力を伸ばすものであるなと筆者は考えております。すなわち、日本語を逐語的に理解していく能力というものはあまりクローズアップされることなく、ただただ日本語を正しく消費していく能力を伸ばすものであるなと考えております。しかしながら、グローバル化が進むにつれ日本語を逐語的に理解することのできない人の比率が増えると同時に、外来語などといった日本語に影響力のある言語が増えるに当たって改めて「母語」を文法的に学んで行く時間が我々日本人に必要になるのかもしれません。

そんな中でミソチコ講師の仰っていた「母語と第一言語」の違いというものは非常に興味深いものでした。現在の日本の教育というものは日本人および日本人を取り囲む環境を構成する言語が異なる自分の母語および周囲のマジョリティ言語が一致していることを前提としていますが、多様な民族が流れてくる中で日本はその根底を変えていかなければいけないという意見に関しては、筆者も賛成するものでした。

さて、ソ連の時代における無償のサービス提供から有償のサービス提供への変容に関する議論に関しては、民族の多様化が進む中で、有償サービス、講演の中で用いられてきた言葉を拝借するのであれば新自由主義的な教育の商品化と言うものは、筆者自身は肯定的に捉えております。経費の抑えられる中央集権型よりも、商品化された教育の方が多様性に富むと同時に、政策等々も小回りの利くものになるのではないかなと思います。

つらつらと自分の意見を述べてきましたが、これからの日本の教育を考えていく中での本講演の趣旨である日ロ教育の比較というものは、非常に重要であることを学ぶことができました。

非常に興味深い講演でありました。協会関係者の皆様、ありがとうございました。（横浜国立大学国際総合学部４年）

☆留学生便り（42）☆

太平洋国立大学語学留学のあれこれ

松本 泰男

２月23日（金）。今日はロシアの休日「男性の日」です。因みに「女性の日」は3月８日。昨日から今日にかけて急に暖かく感じられ、足下も氷が溶けかけてきた様で気を付けないと滑って転びそうです。それでも気温は-12度～-22度位で、数週間前と殆ど変わらないのですが。

前回もお話ししましたが、教科書は貸与されます。これまで多くの先輩達に使われてきて、かなり年季の入った教科書ですが、授業の途中でチョット書き込みたくなる時があります。そのため鉛筆と消しゴムは必需品です。赤いボールペンでいっぱい書き込んでしまった人が居て、こっぴどく叱られていました。宿題もあり、書く量は結構ありますので、シャープペンシルと替え芯はお忘れ無く！重い物ではありませんし、日本から充分お持ちになることを強くお勧めします。

授業は月曜から金曜まで、私のクラスは2時限目（10：10～11：40）と3時限目（11：50～13：20）の2コマで、木曜のみ4時限目（13：50～15：20）もあります。私にとって授業は大変面白く、アクセントやイントネーションの訓練は、少々きついものの大変重要な訓練だと思っています。例えばпреподаватель（先生）と言う単語を音節ごとに区切って机をバシバシ叩きながらプリ・パダ・バー・チェリの「バー」に正しくアクセントが付くまで発話訓練を繰り返します。イントネーションの練習も非常に重要だと思います。単語の並びが同じでもイントネーションの形によって意味が変わるのですが、日本語のイントネーションと違うので骨が折れます。皆さん、かなりお疲れ、ヘトヘトの態です。ある日のこと、授業の合間、先生の居ない隙にC君私の横に来てスマホを見せるのです。画面にはCan I go home?とありました。私「(心の中で）そんな事、俺に聞くなよ！」でも笑顔満面、優しく「ニエット」

授業終了後に学内の食堂で早めの夕食を頂いています。これが安くて美味しく、飽きることがありません。ここのボルシチは最高！との評判ですが、茸のスープも中々です。更に、白いご飯や炒飯に細切れの豚肉や牛肉を乗っけて貰います。これにジュースとサラダをつけて300ルーブル（約600円）を超えることはありません。朝食は寮の自室で紅茶かコーヒーにパンとジャム。休日には共同のキッチンで適当に料理するか、近くのスタローバヤで済ませています。今日（3月10日）はチキンのブイヨンに白菜らしき野菜とゆで卵でスープを作り、近くのスーパーで見つけた「うどん」なる物を煮込んで夕食としました。

寮の部屋は２ベッド・ルーム（1日300ルーブル）を一人で占有させて貰っています。１ベッド・ルーム（1日160ルーブル）もあるのですが別棟の５階とのこと。エレベーターが有りませんので、健康には良いかも知れませんが、こちらを選択しました。空いたベッドに物も置けるし便利です。バス・トイレは隣人と共有ですが、今のところ隣には誰も居ませんので非常に快適です。それでは、また近々ご報告させて頂きます。

マイヤさんの料理教室に参加して

萩原 昌子

2月25日（日）、久しぶりに田町のリーブラに行き、ロシアのピクルススープ「ラソリニク」とウズベキスタン料理「プロフ」を教えていただきました。

ラソリニクのブイヨンは鶏肉とローリエを茶こし袋に入れ、30分ほど煮出してしっかり取りました。もち麦をゆでてスープの中に入れたことや、きゅうりのピクルスも薄切りにして油で炒め蒸し煮してスープの中に入れたので、「ラソリニク」の酢味もあり、深い味わいのあるおいしいスープになりました。仕上げに入れたサワークリームは、ブルガリアヨーグルトと生クリームを混ぜるとロシアのサワークリームに良く似たものになるということです。サワークリームをたくさん使う料理にはこれがいいですね。

炊き込みご飯のプロフは、クミンを潰しながら入れること、ニンニクは逆に粒を潰さずに1個丸のまま中身が見えるくらいに上を切り、炒めた肉や野菜、米の真ん中に埋め込んで米が炊き上がるまで蒸し煮しました。とても元気の出る料理だと思いました。また、鍋の中に材料と水を入れて水の量を測るとき、私たちは指の節を使いますが、ロシアの方は人差し指と中指をそろえて横にして高さを測る方法を教えていただき、とても驚きました。

私たちの班は、坂本さん、山岸さんのベテラン揃いでとても嬉しかったです。プロフの仕上がりは少し軟らかくなりましたが、炊き上がったとき何度もかきまわしたのが原因とのことでした。私はソ連邦の頃、ウズベク共和国に行き羊肉のプロフを食べたことを思い出しながら、マイヤさんの教えてくれたプロフをおいしくいただきました。

私がロシア料理に興味を持ったのは今から47年前、ヨーロッパ6か国三週間の旅に出てそこで色々な国の料理に出会いました。その後、42年前の12月1月に、ハバロフスク、イルクーツクに行ったときニューイヤー・パーティーがあり、そこでガルショーク「つぼやき」に出会い感動しました。そして、お土産にガルショークの立派なつぼを2組いただいて、すっかりロシアが好きになったのが始まりです。それから一年後、（当時の）渋谷ロゴスキーの長屋美代先生と出会い、その年の5月～6月、22日間かけてロシア料理を訪ねる旅に同行いたしました。最終的に旅は60人乗りの大型バスに6人で旅を続け、1日に5回もレストランに入った日もありました。

帰ってからロシア語通訳の三浦みどりさん（故人）にロシアの写真を見せると、「こんなに食材がロシアにあったの？」と驚かれました。ロシアに行く前に、みどりさんが覚えきれないほどたくさんの単語を書いたものを送ってくださり、単語だけで何とか通じて買い物ができたことがとても嬉しかったです。

私は今、宇都宮で料理教室をしながら、長屋美代先生のご長男の長屋晃さんを中心に、41年前に22日間旅をした通訳さん、カメラマンさんと3年前に再会して6名ほどで3か月に1度、都内のロシア料理店を訪ね歩いております。色々なロシア料理に出会うことを楽しみに。どなたかオススメのロシア料理店を紹介してくださいませ。

モスクワ「ムゼイ」巡り・その10

グムの歴史的トイレ Исторический туалет в ГУМ

大矢 温

まずはモスクワ、赤の広場に面して立つデパート「グム」の歴史から。創業は今から120年余り前の1893年。当時世界最大のパサージュ形式（ガラス天井のアーケード街）のデパートだった。アレクサンドル三世当時の保守的な世相を反映した「ネオ・ロシア様式」の巨大な白亜の殿堂である。それ以来、帝政時代は商人の町モスクワを代表するデパートとして、クレムリンのおひざ元の高級デパートとして、内外の超一流高級店がここで贅を競っていた。

やがて1917年の社会主義革命によって世の中は一変。戦時社会主義経済の下で「グム」も食糧人民委員会の倉庫になりさがっていた。が、この戦時社会主義経済、なかなかうまくいかない。ついにレーニンが市場経済を一部、復活する決定をする。「新経済政策（ネップ：НЭП）」だ。これに伴って1921年「国営百貨店（ГУМ）に関する規定」が制定され、「グム」での商品販売が一部復活した。その後、イデオロギー的な締め付けが強化されたスターリン時代には閉鎖されていたものの、スターリンの死後、フルシチョフの「雪解け」の中で復活。以後、モスクワ、そしてソ連の顔としてその存在を誇示してきた。さらにその後、ソ連が崩壊すると、その後の民営化の一環で「国営百貨店（ГУМ）」も民営化され、「株式会社グム」として生まれ変わった。「グム」は「国営百貨店государственный универсальный магазинの略号なので、国営の株式会社？ということになりそうだが、民営化されても「グムはグム」とのこと。歴史と伝統の重みである。

この歴史と伝統を重んじる「グム」に5年ほど前に「歴史的トイレ」が復元された。噴水のある中央通路の北側の階段から地下に下りると、そこは大理石を敷き詰めた豪華な帝政時代の「歴史的トイレ」だ。赤の広場からも至近距離なので、観光の折には是非お立ち寄りいただきたい。もちろん実際に使用することもできる。歴史の重みを実感できるはずだ。　（札幌大学地域共創学群教授）

場所はКрасная Площадь（https://goo.gl/maps/Lv1Fvf3N24o ）年中無休。入場料は大人150ルーブリ。シャワー、マニキュアは別料金。

《モスクワ・アラカルト48》

ありがとう、　タバコフさん！

日向寺 康雄

12日、新生ロシアの演劇界を牽引してきた名優オレグ・タバコフ氏が亡くなった。82歳だった。この訃報を私は、池袋の東京芸術劇場で知った。折しも舞台では、モスクワに留学し彼から直接指導を受けた経験を持つ、女優Yさん主演のお芝居がかかっていた。タバコフ氏は彼独特のユーモアを込めて私を「古くからの知り合い」と呼んでいた（長く付き合いがある割には、おいしい仕事を持ってこないという意味で）。氏と初めて仕事をさせてもらったのは、彼が率いるスタジオ劇団をパルコが招聘した1993年2月の事だ。ソ連崩壊から間もない頃で、劇団は創造的熱気とエネルギー、とにかくヤル気に満ち溢れ、ミローノフやマシコフなど未来の大スター達がひしめいていた。公演レパートリーには「検察官」といったお馴染みの古典物以外に、ソ連時代、長らく上演許可が下りずタバコフ氏の「机の引き出しの奥で眠っていた」思い入れ深い「我が大地（ガリチ作）」も彼本人の演出で入っていた。この作品は、苛酷な大祖国戦争の時代を生きたユダヤ人父子の物語である。今も忘れられないのは、あるインタビューで氏が述べた「私達はソ連時代奴隷だった」という余りに率直な発言だ。しかし氏は、自由社会の厳しさもよく理解しており、自らそれを引き受け、直面する困難克服の先頭に立った。崩壊後、野蛮な資本主義の嵐が情け容赦なく吹き荒れる中、モスクワに留まり（米国で安穏な暮らしもできたのに）演劇学校の一階を銀行に貸すなどして生徒達の生活を助けた。日本公演の際も、招聘元が用意した一流ホテルを辞退、劇団皆でウィークリーマンションに泊まり、浮いた予算を今後の活動費として寄付してもらっている。また氏は、偉大な芸術家・経営者であると同時に、健康を案じる若奥さんに隠れてこっそり、トマトジュースにキッコーマン醤油をたっぷり入れて飲むのが好きな可愛いただのオジサンでもあった。公演後、私は一行と共にモスクワに戻ったのだが、シェレメチェヴォ空港でタバコフ劇団と分かるや、閉まっていたはずのゲートが次々開き、行列もなくほとんどノーチェックで外に出られたのには驚いた。ロシア社会における氏の人気、氏への熱い信頼を垣間見た気がした。その後タバコフ氏が、チェーホフ記念モスクワ芸術座の芸術監督となったのも、当然の成り行きと言える。

あれから20数年が、あっという間に過ぎた。モスクワの劇場では一昨年から、息子パーヴェル（22歳）が「我が大地」の主役を演じている。そして東京の芸術座では、この3月、日本の教え子が主役を務め、その芝居は、今ちょっと辛い状況にある私を癒し励まし、明日を生きる勇気をくれた。タバコフさん、あなたが苦労して撒いた種は、確実に花を咲かせ、国境を越えてさらに多くの人達を幸せにしていますよ。ボリショエ・スパシーバ。どうか安らかにお眠り下さい。

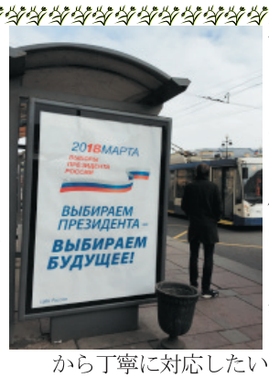
＜ペテルブルグ便り＞

ソ連って何？

大原 翔

2018年の3月18日は大統領選挙の日であった。サンクト・ペテルブルクの3月18日は天気も良く、春が来たとばかりにネフスキー通りは人通りがいつもより多かった。もっとも翌日は大雪となったのだが。写真のような投票を呼び掛ける看板は市内のあちこちに見られ、選挙当日は宣伝カーが音楽を流しながら投票を呼びかけていた。18年の3月18日と18はシャレであったのか、得意の18番であったのか。結果はご承知のとおりプーチン大統領の圧勝であった。筆者自身のスマホにも投票を呼びかけるメールが投票日前から何度となく着信していた。不在投票についての説明も事細かに書いてあった。もっとも、選挙権のない異邦人の筆者には当然関係がない話。どこの国においても個人情報には厳しい時節柄、事件や災害でもないのに、当方のメールアドレスが選挙管理委員会に知られているのかなど・・、小さなことにこだわってしまう。それはさておき、選挙での得票率をあげるのには、若者の票をあつめることが重要であったようだ。そして、それが功をそうしたようである。

先日、日露経済の大先輩から聞いた話である。「最近、ある若い人がロシアとの貿易について書いている文章を読んではたと気づかされたことがあった。『ロシアとの貿易は、年輩の方ばかりがやっている分野だと思い込んでいた。案外若い同年齢の方もやっており、同世代同士で話が合う・・・』と書いてあった。ロシアとの貿易は年輩ばかりがやっていると若い世代には思われていることに気が付かなかった。1960年代、自分自身が若いころ、ソ連との貿易は、大陸中国から帰ってこられたロシア通のベテランの方々の独壇場であったと思っていたころと似ている面もあるのかなと、昔を思い出した。」



サンクトペテルブルクで日本の留学生と時々話す機会がある。ほぼ年輩？の筆者のところにまで来てくれるのだから丁寧に対応したいと思っている。彼らは、2000年より少し前に生まれたソ連を知らない世代である。ソ連って何ですかと聞かれそうになる。社会主義、冷戦、レーニン・・・などへの関心は少なく、昔の若い人たちとはまったく違った切り口でロシアに入ってきている人が多い。そして、その切り口は、大きく広がっている。ロシアと関わる間口が広がっているのは良いことである。

一方、ロシアからの日本への関心をもつ若い人もその関心分野は大きく変化している。従来のように日本語や日本文学や政治経済、伝統的な日本文化の関心から入ってくる人もいるが、アニメ、マンガ、Ｊポップ・・・といった興味から、日本に関心を持ってくる若者が急増している。彼らもソ連を知らない子供たちである。

何事も次の世代をになう若い人を取り組んでいくことが重要であると思う毎日である。一方、人生100年、折り返し地点に入りかかった筆者はまだまだこの国と付き合いながら頑張りたいとひそかに思っているのだが・・。